



安全教育はチャイルドシートから

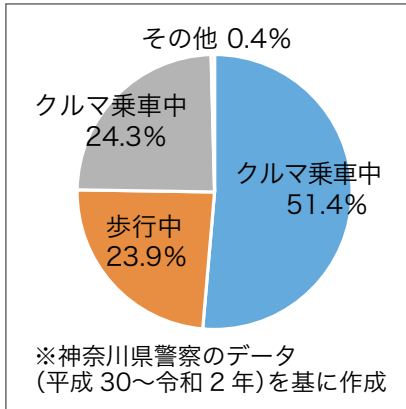
しっかりと取り取り付け、正しく使う

幼児にとってクルマの中は危険がいっぱい

4〜6歳の幼児が交通事故で死傷するのは、どんな状態が一番多いでしょうか。歩行中？自転車に乗っている時？

正解は、なんと、クルマに乗車中です。神奈川県内における過去3年間の4〜6歳幼児の交通事故死傷者数を状態別で見ると、全体の半数以上、51.4%（764人）がクルマの乗車中に死傷していました。（表1）

表1 4〜6歳幼児の交通事故死傷者状態別



クルマ乗車中の死傷者は学齢が上がるにつれて少なくなります。でも小学生・中学生の2割程度は、クルマの乗車中に死傷しています。

交通事故から大切な子どもを守るという点、クルマや自転車などにぶつからないようにするための安全教育がまず思い浮かびます。しかし、クルマの中の安全対策も、それと同じくらい大切に考えないといけません。

データを見るかぎり、幼児にとってクルマの中というのは、死傷する可能性がもっとも高く、決して安全な場所とは言えないのです。どうしても車内の子どもの安全を守ることができるとは、決して安全な場所とは言えないのです。

使って安心 チャイルドシート

車内に備えられた安全装置といえ、まずシートベルトを思い浮かべるのではないのでしょうか。シートベルトは、乗員を座席に固定することで、事故の衝撃から乗員の体を守ります。

では、シートベルトが着用できない赤ちゃんの場合はどうでしょう。抱っこは危険です。赤ちゃんの柔らかく、とらえどころのない体は、とても人間の力で抱きとめられるものではありません。

また、骨格のしっかりしてきた幼児でも、座席に座っているだけでは危険です。急ブレーキの時さえ、子どもは座り続けることができないからです。

揺れるばかりか、いつ急ブレーキで止まるかわからない車内において、かけがえのない子どもの命を守るものは、専用のチャイルドシート

をおいてほかにありません。警察庁の統計によると、チャイルドシート不使用の致死率は適正使用の約8.1倍。子どもをしっかりと固定するチャイルドシートは、事故の被害を大きく軽減することが分かります。

家庭に合ったチャイルドシートを選びましょう

チャイルドシートは、大きく分けると次の三つのタイプがあります。

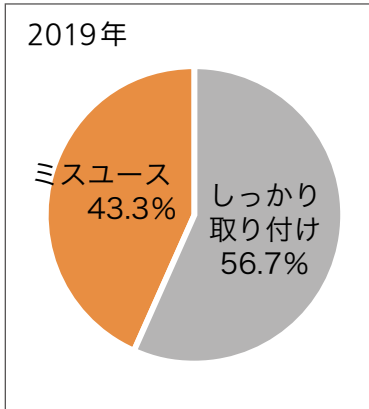
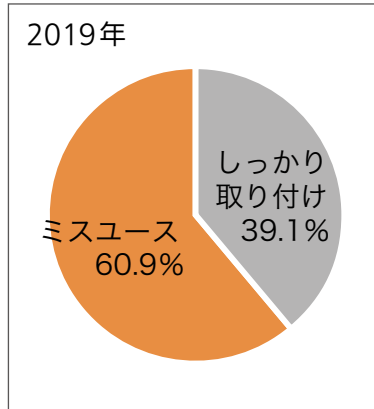
- ① 乳児用（体重10kgくらいまで。新生児〜1歳くらい）
- ② 幼児用（体重9〜18kg。1〜4歳くらい）
- ③ 学童用（体重15〜36kg。4歳〜10歳くらい）

この3種類のほか、兼用タイプがあります。①と②の兼用、②と③の兼用、①〜③の兼用です。兼用タイプは長く使えるので人気がありますが、二人目以降にお下がりできない場合があります。①〜③の専用タイプは、一見不経済ですが、軽くて扱いやすいというメリットがあります。

子どもの数によって買い替えのサイクルも変わります。どのタイプのチャイルドシートを購入するか、事前に考えておきましょう。しっかりと取り付けられるか（クルマによっては取り付けできないチャイルドシート）

7 診療所だより

表3 幼児用シートの取り付け調査結果 表2 乳児用シートの取り付け調査結果



ともある)、使いやすいかも、選ぶ際の大切なポイントです。

しっかり取り付けないと危険

座席に直接はめ込むISOFIXタイプであれば、簡単に確実な取り付けができますが、それ以外はシートベルトで締めつけます。

JAFが警察庁と合同でおこなったチャイルドシートの全国調査では、乳児用シートの43%、幼児用シートの61%は、しっかりと取り付けられていませんでした。しっかりと取り付けができてい

ない(ミスユース)原因の7割は、腰ベルトの締め付け不足です。シートベルトは時間の経過とともに緩みます。子どもを乗せる時は、その都度、取り付け状態、腰ベルトの張り具合を確認すると安心です。緩みがあれば、増し締めしましょう。

正しく座る習慣を身につけよう

いかに正しく取り付けられたチャイルドシートであっても、子どもの座り方次第では安全とは言えない場合があります。

特に注意したいのは、チャイルドシート内の安全ベルトであるハーネスがしっかりと子どもを固定しているか、という点です。ハーネスが緩いと、座席から飛び出してしまう危険があります。

このハーネスは、大人のシートベルトに相当するものです。ハーネスの高さ、長さを調節し、子どもの体にぴったりと合わせるようにしましょう。

正しく使用するには、きちんと座って、背中やお尻に隙間がないようにしないとけません。幼いうちにクルマの中の正しい着座を身に付けておくと、将来的にも役に立つでしょう。

保健福祉課保健予防係
☎(288)3861

診療所だより



煤ヶ谷診療所
安井医師

医療機関受診の仕方について

清川村の皆さん、今月は医療機関を受診する際の心構えの話です。

かかりつけ医がある方は、ある程度の医療情報が溜まっているので短い診察で済むことも多いと思います。しかし、そうでない方は通常受診した理由を聞かれます。なので、カレンダーをみて病状の変化を整理してから診察室に入ると良いでしょう。急に発症したのか徐々に発症したのか、症状は悪化傾向なのか改善傾向なのか、何かきっかけがあったのかなどの情報が、病状を判断する上で欠かせないからです。

また、今まで何か病気にかかったことがあるか聞かれます。入院や手術などでもなければ忘れてしまうことも多いと思いますが、お薬手帳などで処方の日時と内容を見せてもらえば、こちらで情報を補いつつ思い出してもらえることもあるので、ぜひ持って来て下さい。

さらに、最近何らかの検査を受けていれば、結果を持って行きましょう。人間ドックのように高級な検査でなくても、会社の健診や住民健診の結果などで構いません。健康だった時のデータと比べて、数値に変化があれば、診断に役立つ可能性があります。

これら3つのことを覚えておけば、ある程度円滑な診療を受けられると思いますので、心がけてもらえたら幸いです。



問 県立煤ヶ谷診療所 ☎(288)1352